水資源機構（みずしげんきこう）「2022 年 水質年報」を作成しました

水資源機構では、より良質な水の提供に向けた取組として、貯水池等の機構施設の水質調査を日常的に行い、水質状況を把握しています。

この水質調査の結果をとりまとめ、機構施設の水質状況について、広く国民の皆様に知っていただけるよう、毎年、水質年報を作成し、公表しているところです。

このたび機構の管理施設における 2022 年の水質状況をとりまとめた「2022 年 水質年報」を作成しました。

本年報により、機構施設の水質状況や水質保全等の取組をご確認いただけましたら幸いです。

「2022 年 水質年報」は、本日より水資源機構のホームページでご覧いただけます。

水資源機構　水質年報　検索

水がささえる豊かな社会
独立行政法人
水資源機構

令和５年９月２６日

独立行政法人　水資源機構

発　表　記　者　ク　ラ　ブ
竹芝記者クラブ、水資源記者クラブ、 埼玉県政記者クラブ

問　い　合　わ　せ　先
独立行政法人水資源機構 住所：埼玉県さいたま市中央区新都心１１－２ 電話：総務部広報課　　船越、下島　０４８（６００）６５１３ ダム事業部環境課　稲木、清水 ＨＰ：https://www.water.go.jp/honsya/honsya/index.html

（別紙）

「2022 年 水質年報」の概要

１.「2022 年 水質年報」について

水資源機構では、情報発信の一環として、水質の状況を利水者及び行政等の関係者をはじめ、広く国民の皆様に知っていただけるよう、毎年、水質年報を作成し、水資源機構ホームページで公表しています。

「2022 年 水質年報」は、2022 年に機構が実施した定期水質調査結果や水質の経月・経年変化、水質異常の発生状況等をとりまとめたものです。

なお、水資源機構では、平成 16 年に「平成 15 年 水質年報」を作成し、以降、毎年作成しています。

２.「2022 年 水質年報」構成と水質等の状況

水質年報は、第Ⅰ編「概要」、第Ⅱ編「個別施設の状況」、第Ⅲ編「水質調査結果データ集」で構成しています。

第Ⅰ編は、各施設の調査実施状況、気温と降水量の概況、全体的な水質概況（主要項目の経年変化、水質異常・水質事故の発生状況）、水質保全への取組等について、とりまとめています。

○ 2022 年の水質の概況（第Ⅰ編　Ⅰ-１５～５４）

・各施設における主要な水質項目（BOD・COD、全窒素、全りん、クロロフィル a、SS）の過去 20 年の経年変化は、全窒素で改善傾向が見られる施設が多く、その他の項目は一時的に高い値となった施設もありますが、全体としては概ね横ばい傾向でした。

※水系ごとの状況は、下記ページのとおりです。

利根川・荒川：Ⅰ-１５～２４、豊川・木曽川：Ⅰ-２５～３４、
淀川：Ⅰ-３５～４４、吉野川：Ⅰ-４５～４９、筑後川：Ⅰ-５０～５４

○　水質異常の発生状況（第Ⅰ編　Ⅰ-５５、５６）

- 2022 年は、機構が管理している 53 施設中 18 施設で植物プランクトンの異常発生や濁水長期化が確認されました。
- 植物プランクトンの異常発生数の内訳は、アオコが６施設、淡水赤潮が 10 施設、水の華が 1 施設、異臭味の発生が 2 施設でした。濁水長期化は、出水による濁水の流入等により、６施設で発生しました。

アオコ：湖面が緑色に着色（藍藻が優占）、淡水赤潮：湖面が黄色～赤色に着色

水の華：アオコ・淡水赤潮以外の湖面の着色

異臭味：貯水池等で臭気物質が高濃度で検出された場合、あるいは利水者などから連絡があった場合

濁水長期化：貯水池の流入濁度＜放流濁度となり、下流河川への放流濁度 10 度以上が 1 週間以上、継続した場合

※　**複数の水質異常が発生した施設があるため、水質異常が確認された施設数と内訳の合計数は一致しません。**

○　水質保全への取組（第Ⅰ編　Ⅰ-５８～６１）

巡視（大山ダム）

水質調査（岩屋ダム）

オイルフェンス設置訓練（筑後大堰）

ﾅｶﾞｴﾂﾙﾉｹﾞｲﾄｳ駆除（印旛沼開発）

第Ⅱ編「個別施設の状況」は、機構の管理施設（全 53 施設）毎に以下の項目についてとりまとめています。

１．施設諸元	６．水質の経月変化
２．水質基本情報	７．水質の経年変化
３．水質調査の実施状況	８．気象・流況
４．水質の概況	９．水質異常の発生状況
５．水質調査結果	１０．水質保全設備

第Ⅲ編「水質調査結果データ集」は、各施設の水質調査結果（第Ⅱ編「個別施設の状況」に非掲載のデータを含む）をエクセルファイルに整理しています。